

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 4 年 6 月 28 日現在

機関番号：37105

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2021

課題番号：19K13963

研究課題名（和文）住民による見守り活動の普及過程とその要因に関する研究

研究課題名（英文）A Study on the Process and Factors of Popularizing Mimamori Activities by Residents

研究代表者

萩沢 友一（Hagisawa, Yuichi）

西南学院大学・人間科学部・准教授

研究者番号：50737674

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 600,000円

研究成果の概要（和文）： 要支援者に対する住民による見守り活動の普及を促す要因を明らかにするため、都市部の複数の地域における先行事例調査を行った。その結果、民生委員の役割や活動の限界、および地域で孤独死事案が生じ易くなっていること等について住民間で話し合うこと。また、住民組織間の人事交流や、住民組織が日常的に協働する行事・会議が存在すること等が、住民から協力を得るきっかけとなっていた。加えて、マンションに居住する要支援者を把握するために、民生委員等がマンションの管理人と親交を深めるなど、住民の独創的な工夫・努力の積重ねにより活動が成立していた。これら知見は、他の地域で活動を推進する際の手がかりとなり得ると考えられる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

わが国において、支え合う地域づくりが求められている。その1つの活動として、見守り活動がある。これまでの研究では、住民がいかにして活動を推進したのかに着目したものは少なかった。この点に着目した研究を行った結果、住民による独創的な数々の取り組みが、見守り活動の普及に結実していることが明らかとなった。そして、それら取り組みは、先行事例を有する地域において、一定の共通性がみられるようである。今後も事例を積み上げる必要はあるが、本研究により得られた知見は、見守り活動の推進に寄与するものと考えられる。

研究成果の概要（英文）： With a view to clarifying the factors which promote citizens' activities of looking after those who need support, this study analyzed existing cases in multiple urban areas where such activities have already spread to a certain extent. The analysis revealed that the citizens under study shared information about the role and limits of social welfare workers' activities and the possibility of the occurrence of solitary death, interacted between different citizens' groups, and held collaborative events and meetings on a daily basis, thereby having a good motive to look after others and committing to collaboration. In addition, it was found that social welfare workers obtained information about the situation of those who lived in apartments and needed support, by deepening the friendship with the apartment managers.

研究分野：地域福祉論

キーワード：見守り活動 地域福祉 社会福祉協議会 地域共生社会

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19（共通）

1．研究開始当初の背景

少子高齢化と世帯規模の縮小化が急速に進むわが国においては、自宅で急病の発症時や災害時に頼れる人がいないため、不安を抱えている一人暮らし高齢者等が増え、また、孤立死の事例も多数報告されている。

このような問題に対応するため、地域ぐるみによる見守り活動の必要性が叫ばれ、社会福祉協議会を中心として各地で取り組まれている。しかし、この活動の推進には住民の理解と協力が必要であり、容易には進まない。

そこで、どのようにすれば活動を普及できるのかを解明する研究の蓄積が求められるが、先行研究は少なく、また、その中でも専門職を対象とした研究が多くみられた。しかし、この活動では、住民が果たす役割も大きいため、住民側がいかにして活動を普及させたのかを解明する研究を蓄積することも課題であると考えられた。

2．研究の目的

見守り活動の推進母体となる地域住民組織の動きに焦点を当て、見守り活動の普及過程から、活動の普及を促す要因を明らかにすることを目的とした。そして、得られた知見を用い、地域特性に応じた見守り活動普及の方法を明らかにできる、地域アセスメントの枠組みの作成を試みたいと考えた。

3．研究の方法

当初は、富山県を中心に調査を行う予定であったが、感染症の流行などの影響により調査先との調整が困難となった。そこで、研究課題と目的を鑑み、これを達成しうる調査対象地域として福岡市を選択した。福岡市は、校区社会福祉協議会や見守り活動の歴史が古く、活動の経験が蓄積され、活動が一定程度広がっている地域が散見された。

この度の研究では、市内の中でも都市部を中心に、社会福祉協議会や民生委員のみが活動を行うのではなく、自治会などの住民組織の協力を得ながら行うことができている地域に限定して調査を行った。調査方法は、見守り活動の普及に最も貢献した校区社会福祉協議会の（元）構成員を対象としたフォーマルインタビューの実施や資料の収集によるものであった。調査結果は、定性的コーディングにより分析した。

4．研究成果

研究期間中に、6つの地域の調査を行った。このうちの1つの地域においては、見守り活動の発足当初は、民生委員が中心として活動を担っていたが、しだいに限界が生じ、また、活動に協力することに対する自治会からの反対やマンション居住者の把握が困難という障壁に遭遇しな

がらも、様々な手段や促進要因により障壁を乗り越え、自治会を中心とした見守り活動の実施体制の整備に成功していた。このうち、手段としては、民生委員の役割や抱える課題を自治会関係者と共有する、個人情報保護法の遵守や民生委員の守秘義務の課題を乗り越えるため、本人同意を原則として見守り対象者のデータを整理し、共有する、マンションの管理人と民生委員が親交を深めることで、マンションに居住する要支援者を把握する、などが認められた。促進要因としては、自治協議会と校区社会福祉協議会の人事交流、避難行動要支援者名簿等の行政からの要支援者に関する情報、などが認められた。この内容については、「人口密集地域における見守り活動の住民による普及方法に関する研究 - 福岡市 A 校区の取り組みを事例として」と題した論文にまとめ、報告した。

また、市内の1つの地域と、他県の2つの地域を比較し、活動を推進しようとする住民が、どのようにして周辺の住民に働きかけた結果、活動への参加を促したのかを検討した。これらの地域は農村地域や都市地域など特性が異なるが、いずれの地域においても、地区社会福祉協議会は、人事交流の形態を変容させることや、社会福祉協議会による行事を自治会等の他団体と共に行うよう、その実施体制を変容させること等により、社会福祉協議会と周辺住民団体との関係を強化していた。このことにより、住民から社会福祉協議会活動の理解を得られるようになり、見守り活動への協力者も増える結果となっていた。この内容については、「住民が住民に対して見守り活動への参加を促す働きかけに関する研究」と題した論文にまとめ、報告した。

以上を踏まえると、見守り活動の普及のためには、マンションに居住する要支援者の把握を円滑化するには、民生委員等による努力に依存するのではなく、専門職による支援を要すること、個人情報保護を遵守することが求められるが、これには一定の知識や仕組みを要する。このため、専門職による支援のもと、地域の状況に応じて、個人情報保護を遵守しつつ住民間で情報を共有できる体制を整えることが求められる、ことなどが理解できた。

これまでの調査では、事例の数が限られているため、地域アセスメントの枠組みを作成するには至らなかった。コロナ禍で難しい側面もあるが、今後も事例を積み上げてゆき、これを作成する予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 萩沢友一	4. 巻 34
2. 論文標題 人口密集地域における見守り活動の住民による普及方法に関する研究－福岡市A校区の取り組みを事例として	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本の地域福祉/日本地域福祉学会	6. 最初と最後の頁 75-88
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 萩沢友一	4. 巻 22
2. 論文標題 住民が住民に対して見守り活動への参加を促す働きかけに関する研究	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 地域ケアリング	6. 最初と最後の頁 57 - 59
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 萩沢友一	4. 巻 17
2. 論文標題 過疎集落における住民自治組織変革に関する考察：福岡県八女市星野3区を事例として	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 コミュニティ政策	6. 最初と最後の頁 141 - 155
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------